

R5年9月

夏の共同研

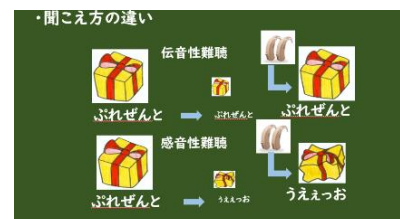
今回は「聴覚障がいの子どもたち」というテーマでした。聴覚障がいの説明、難聴の種類、オーディオグラムについて話をした後、本校の子どもたちの実態を通して、日々の場面での対応の仕方や子どもたちに向けての配慮について話を行いました。

講演会のあとは、情報交換や難聴体験を行いました。情報交換では、日々の困りごとを話し合ったり、悩みを相談されたりして活発に意見交換が行われていました。

難聴体験では、イヤマフを付けたときの聞こえ具合を体験したり、軽度難聴の平均聴力である25dBの音の大きさを聞いていただいたり、聞こえ始めの音を知ってもらったり、日頃の程度の音を聞いて生活しているのかを知っていただきました。

聴こえにくさを体験すると、周囲の音が全く聞こえない、目の前の人との会話に集中して周りのことが分からない、などの感想が出てきて、子どもたちが日々どのような環境にいるのかを知っていただけたようでした。ここでの話を実践に活かしてもらえたら、と思います。

当日は暑い中、多数ご参加いただき、ありがとうございました。



早期教育相談の医療・福祉機関との連携について

早期教育相談では、医療・福祉機関との連携も積極的に行なっています。

今年は、幼稚部職員が通学区域内の関係機関や保健センターなど巡回を行ないました。

保健センターでは保健師さんを対象に、難聴の早期発見と早期フォローの重要さや、本校の教育相談内容について説明させていただき、関係機関の方々からは、聞こえにくさを持つお子さんの様子や、保護者の声を聞かせていただきました。

難聴体験をしていただくと、「話を聞くだけではなく、話をするのも嫌になる。今まで想像していた音の世界と違う。」と感じられた方もいらっしゃいました。

関係機関の方々との連携を取らせていただくことで、聞こえにくさを持つ子どもたち・保護者の方々が気軽に相談していただけるようにと思っています

小学生通級指導

5月から通級指導をスタートし、最初の学習で子どもたちに「学校生活でのきこえ」を尋ねました。学年が上がり「担任の先生やクラスの友だち」「教室の場所」等々変化して聞こえの環境が変わったという子もいれば、あまり変化を感じない子もいて、千差万別です。きこえの感じが変わり困ったことがある子には「今後どうしたいのか」を一緒に考えるようにしました。他にもイヤモールドのそうじや電池残量のチェックなど、補聴器の基本的な管理の方法も学習しました。

中学生通級指導

今年度は5月末より通級指導を開始しました。中学1年生は『学校生活でのきこえ』を振り返っています。2学期以降、学校ではこんな方法してもらえたらよいか、周りの同級生には自分のきこえについて、これを伝えたい！など多くの生徒が時間をかけて取り組んでいます。

中学3年生は高等学校入学選抜に向けて『自己申告書』の作成に取り組んでいます。また、中学部との交流学習会も随時受付しています。参加した生徒は楽しかった、また2学期も参加したいと言っていました。

第2回 共同研相談会のご案内

10月24日（火）の13:30～17:00実施されます。

夏季研修でエントリーいただいた方々、是非とも相談会へ来校いただき、お話を伺えたらと思っています。もちろん、日程のご都合が悪ければ、別日に設定することも可能ですので、ご連絡いただけたらと思っています。

冬の共同研のご案内

12月22日（金）大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科

言語聴覚士 諏訪 圭子先生をお招きして講演会を行います。

病院の現場での貴重なお話が聞けることを私たちも楽しみにしています。詳細は後日お知らせいたします。ぜひご参加ください。

大阪府立堺聴覚支援学校支援学校 聴覚支援センター 小田・梅本・山岸・岡本・木村
〒591-8034 堺市北区百舌鳥陵南町1丁 ☎072-257-5471 📠072-257-3310